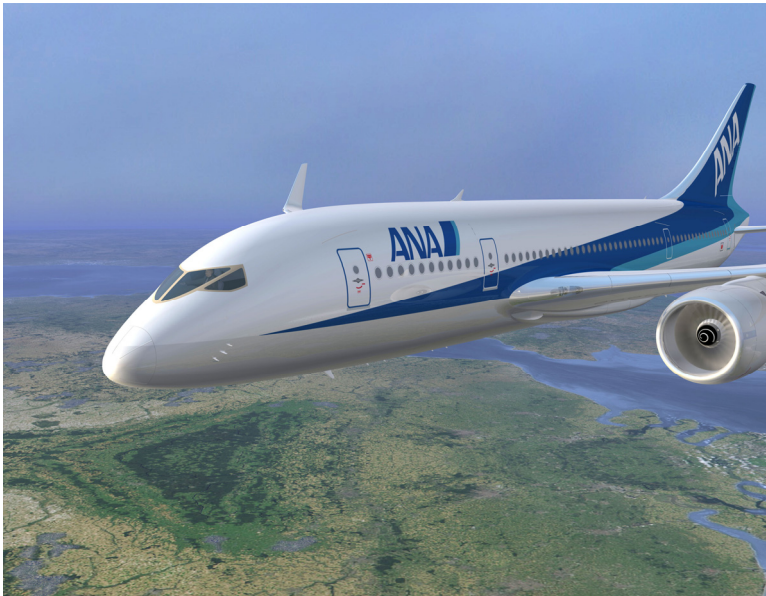


全日本空輸株式会社 2009年3月期 第2四半期決算説明会

【第1部】



2008年10月

グループ経営理念

— 私たちのコミットメント —

ANAグループは、「安心」と「信頼」を基礎に

- 価値ある時間と空間を創造します
- いつも身近な存在であり続けます
- 世界の人々に「夢」と「感動」を届けます

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である。

私たちはお互いの理解と信頼の
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、国内および日本とアジア
そして世界の旅客・貨物輸送を担う
航空事業を中核としてアジアを
代表する企業グループを目指す。

▶▶アジアを代表するとは、

- クオリティで一番
- 顧客満足で一番
- 価値創造で一番

となることである。

I. 2008年度第2四半期決算報告	P.4
II. 2008年度業績見通し	P.5
III. 2008年度重点戦略	P.6
・国内旅客事業	
・国際旅客事業	
・貨物事業	
・費用削減対策	
IV. 中期経営戦略	P.10

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公租公課がコストとして発生します。また、実際の業績に影響を与えうる重要な要素としては、経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動、ならびに災害のリスクなどがあります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。

厳しさを増す経営環境のもと、ミニマムラインの利益を確保

《第2四半期決算の概況》

《事業環境》

- 金融システム不安、景気の減速感
- 成熟した国内線需要と他社競合
- 堅調な欧米線需要と中国線の不振
- 日本発着航空貨物の需要減速
- 乱高下する原油、為替市況

	第2四半期累計	前年同期差
売上高	7,533億円	▲99億円
航空運送事業	6,668億円	+7億円
営業利益	498億円	▲172億円
航空運送事業	482億円	▲145億円
経常利益	395億円	▲172億円
当期純利益	220億円	▲834億円
EBITDA	1,051億円	▲83億円

《第2四半期決算のポイント》

- 営業利益は前年同期比で減益（航空運送事業は増収減益）
- 前期から引き続く中国線の需要低迷の長期化などにより、全体売上が伸び悩み
- 継続的なヘッジ戦略により、乱高下する燃油市況の中、燃油費は当初計画ラインにて推移
- 前期の純利益にはホテル資産売却益を含む

世界経済減速の中、通期業績見通しを修正

《足元の事業環境》

- 想定を超える世界経済の混乱と景気の急減速
- 航空運送需要の急激な後退基調
- 不安定な原油、為替市況

《経営課題》

- 需要の後退を前提とした供給調整と収入対策
- 費用コントロールの徹底による利益の確保
- 安定的な株主還元を継続
- 成長の為の設備投資を十分な精査のうえ実施

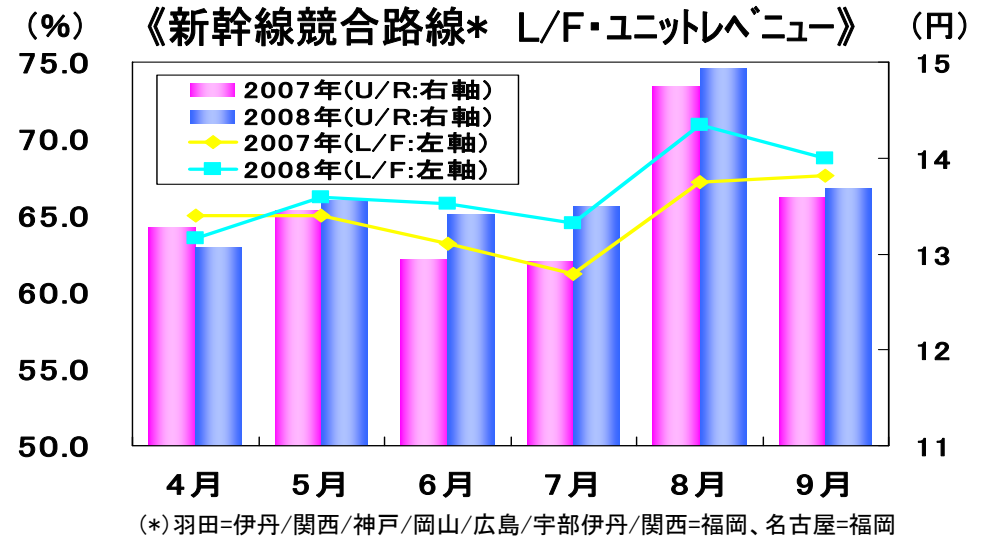
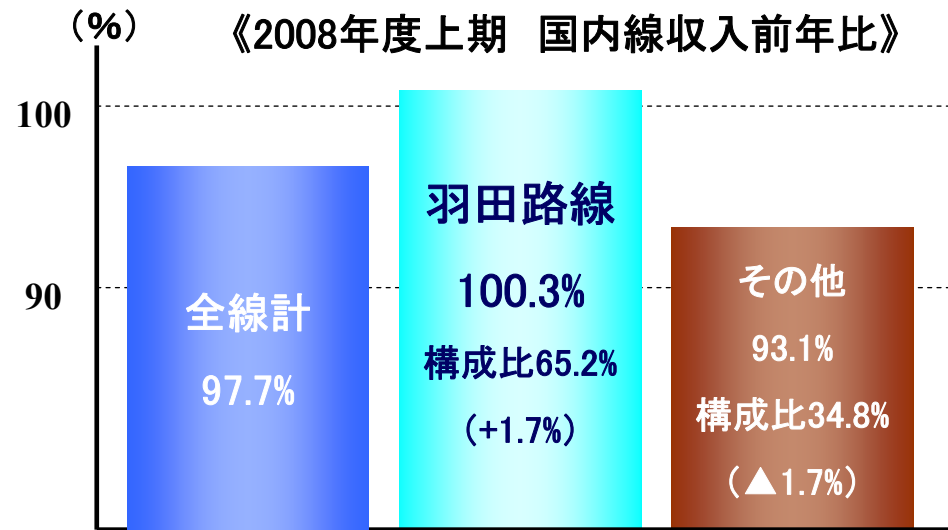
《2008年度連結業績見通し》

	当初予想	今回修正	増減額
売上高	15,100億円	14,600億円	▲500億円
航空運送事業	13,390億円	13,020億円	▲370億円
営業利益	800億円	550億円	▲250億円
航空運送事業	730億円	520億円	▲210億円
経常利益	520億円	290億円	▲230億円
当期純利益	270億円	170億円	▲100億円
配当	3円	3円	—

《2008年度 連結営業利益 見通し》



国内旅客事業：羽田集中化の進捗と安定収入の確保



《第2四半期までの概況》

■ 羽田路線への集約化進捗、新幹線競合路線の実績改善

《下期に向けて》

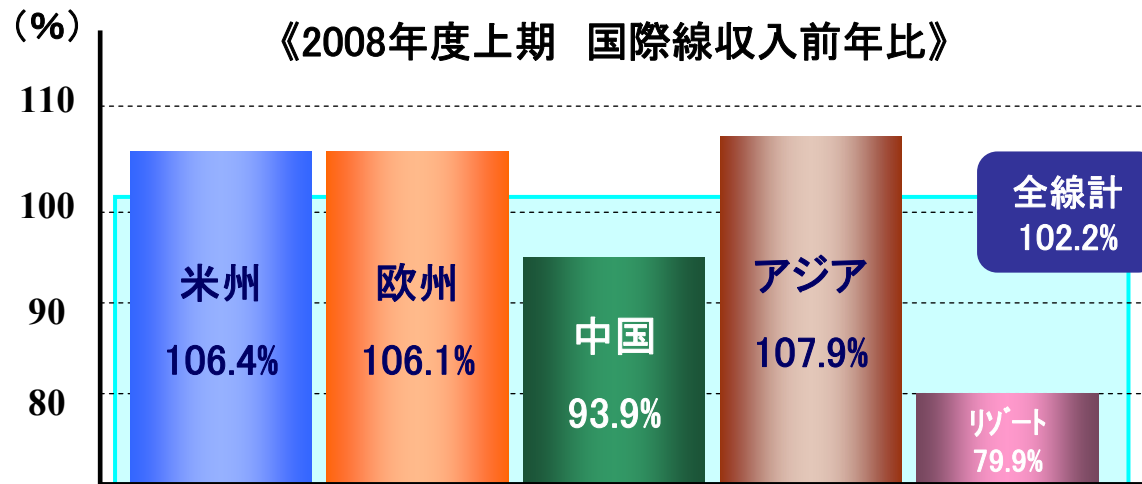
- 低需要路線の休減便と高需要路線増便による供給調整
- 需要が堅調なメインラインでの確実な摘み取り
- 柔軟な運賃施策、商品力強化による競合対策と需要喚起

《2008年度下期 & 年度見通し》

(前年比)	下期	年度
座席キロ	91.3%	93.7%
旅客キロ	96.0%	96.5%
イールド	102.1%	101.4%

■ 休止：長崎=沖縄
 ■ 減便：千歳=仙台他
 ■ 増便：羽田=福岡、羽田=佐賀

国際旅客事業：需要変動に対応した収入確保対策



《2008年度下期 & 年度見通し》

(前年比)	下期	年度
座席キロ	99.8%	100.3%
旅客キロ	95.3%	95.9%
イールド	107.3%	106.6%

■ 休止：関西=グアム、中部=台北
 ■ 機材小型化：成田=広州、羽田=上海

《第2四半期までの概況》

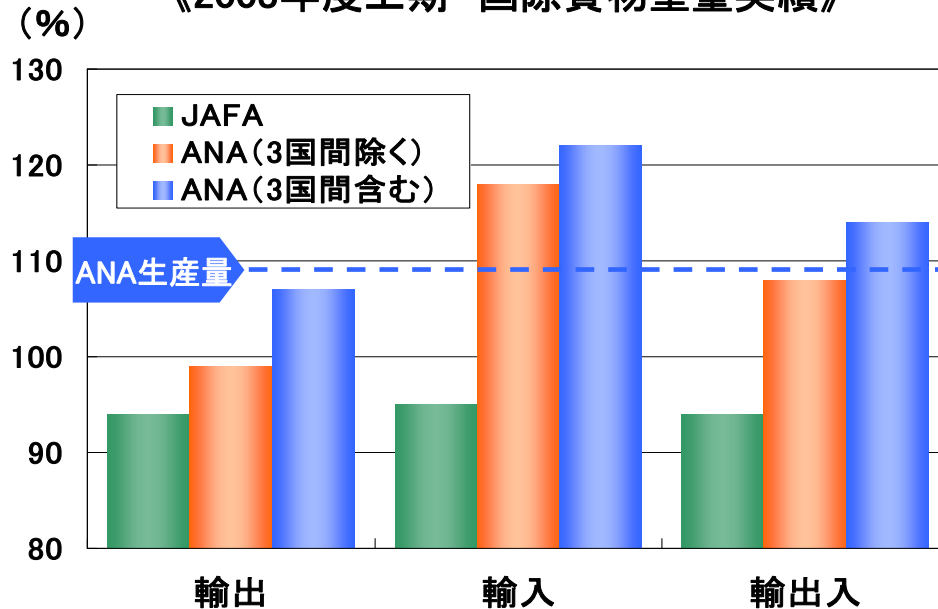
- 中国線の需要減退が長期化する中、欧米線・アジア線を中心に増収を確保

《下期に向けて》

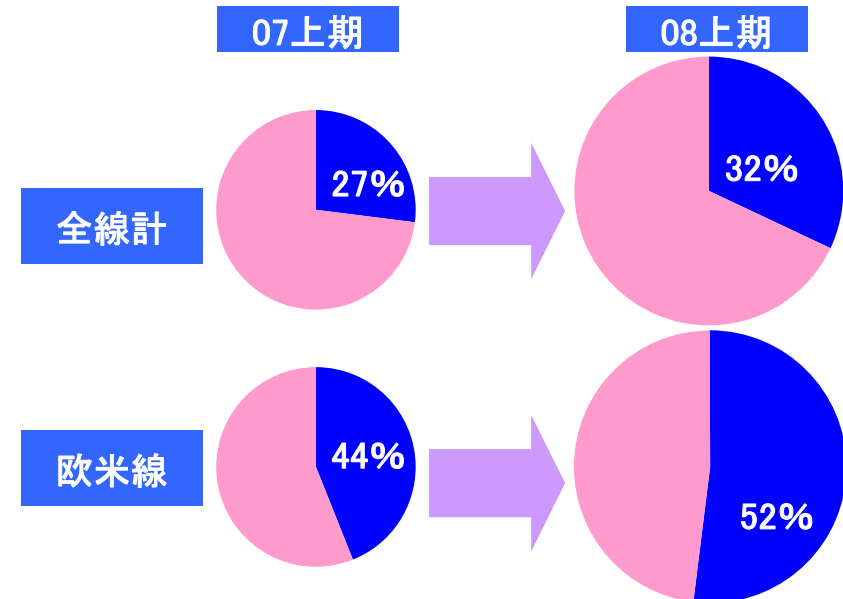
- 需要の低迷が続く中国・リゾート路線の供給量を調整し、最適機材の配置を促進
- 世界的な景気減速、業務渡航需要の縮小を念頭に、プレジャー需要の喚起にも注力
- IATA運賃改訂、適切なFSCの設定、プロダクト強化を軸に収入を確保

貨物事業：競争力の強化により増収を継続

《2008年度上期 国際貨物重量実績》



《ANA三国間輸送重量の構成比推移》



《第2四半期までの概況》

■ 日本発着単価の改善、三国間貨物の摘み取りが奏功、全体の荷動きが低迷する中で増収

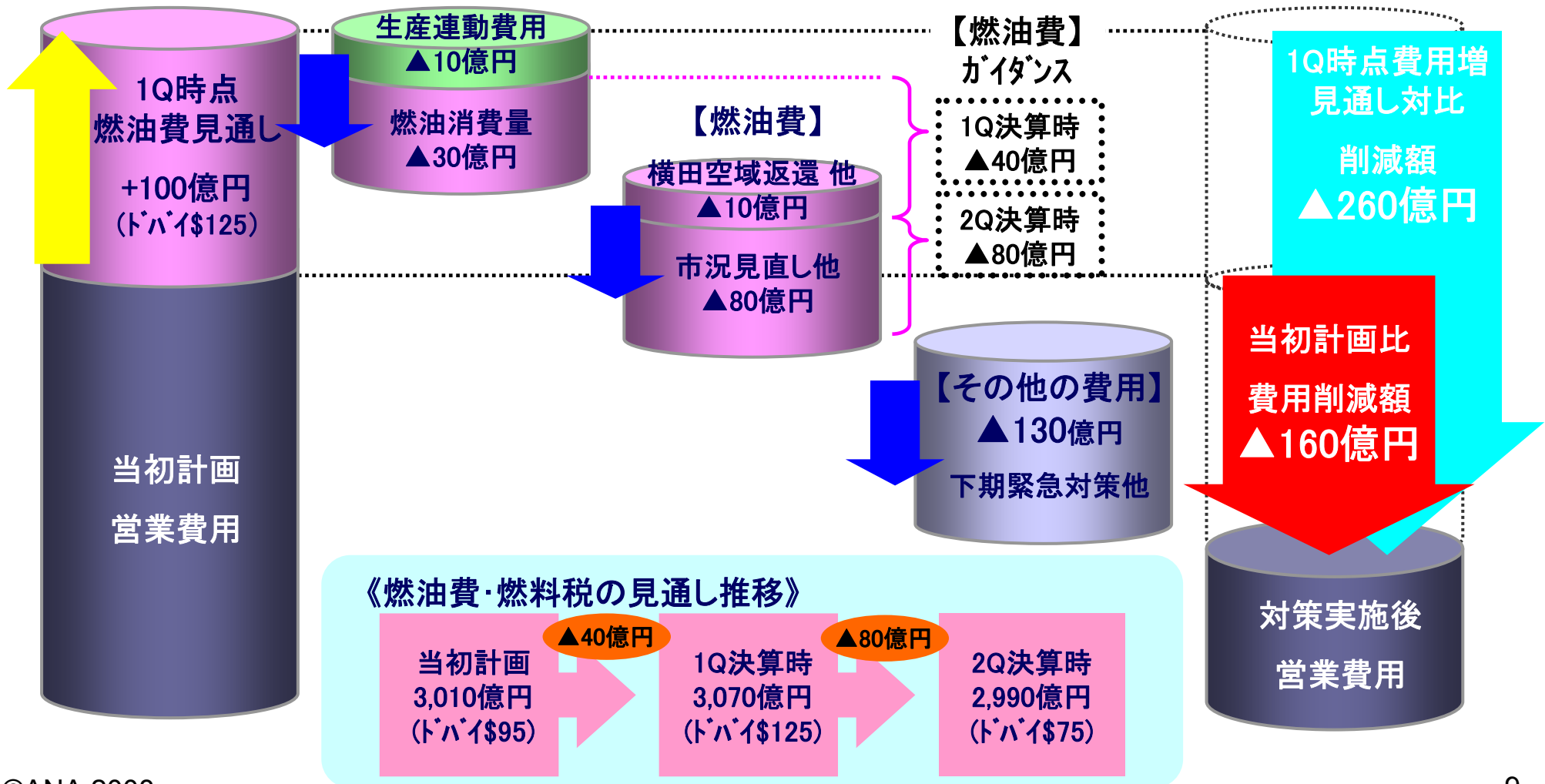
《下期に向けて》

■ ネットワークの更なる充実(成田路線の拡充:バンコク便、香港便などを中心に関西からシフト)

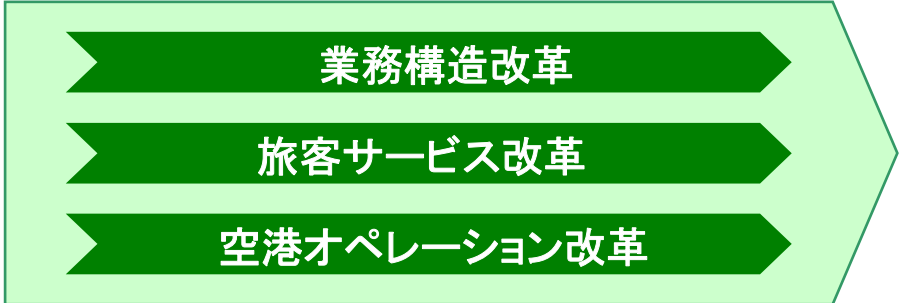
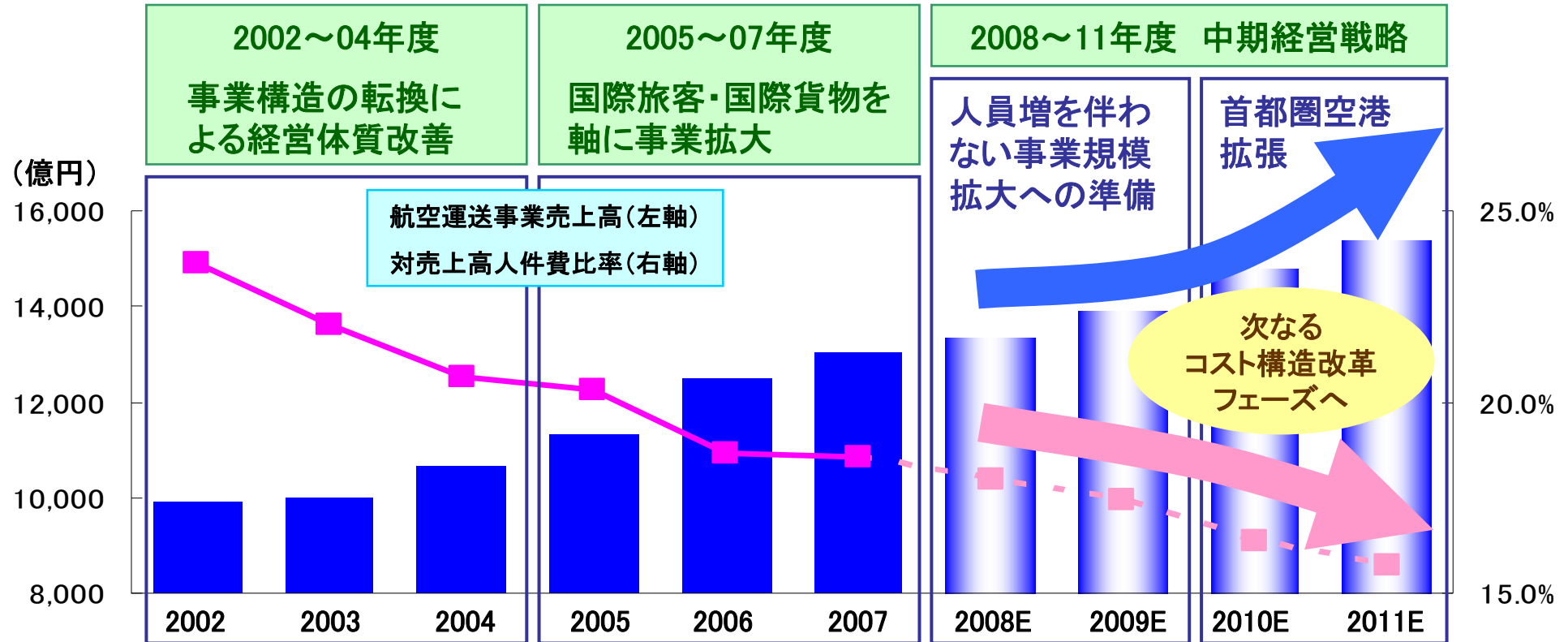
■ 沖縄ハブ、大型機導入、ITインフラ展開の準備を着実に進め、事業基盤を強化

費用削減対策: 最大限の費用削減対策を実施

《航空運送事業の費用削減対策》



次の成長に向けイノベーションを推進



■ 従来とは異なる収益性向上シナリオ
 ■ 2011年度までに人的生産性を20%改善

新たな事業環境へ対応し、アジアNo.1を目指す新戦略へ

2008～11年度 中期経営戦略

2009年度～ 新中期経営戦略

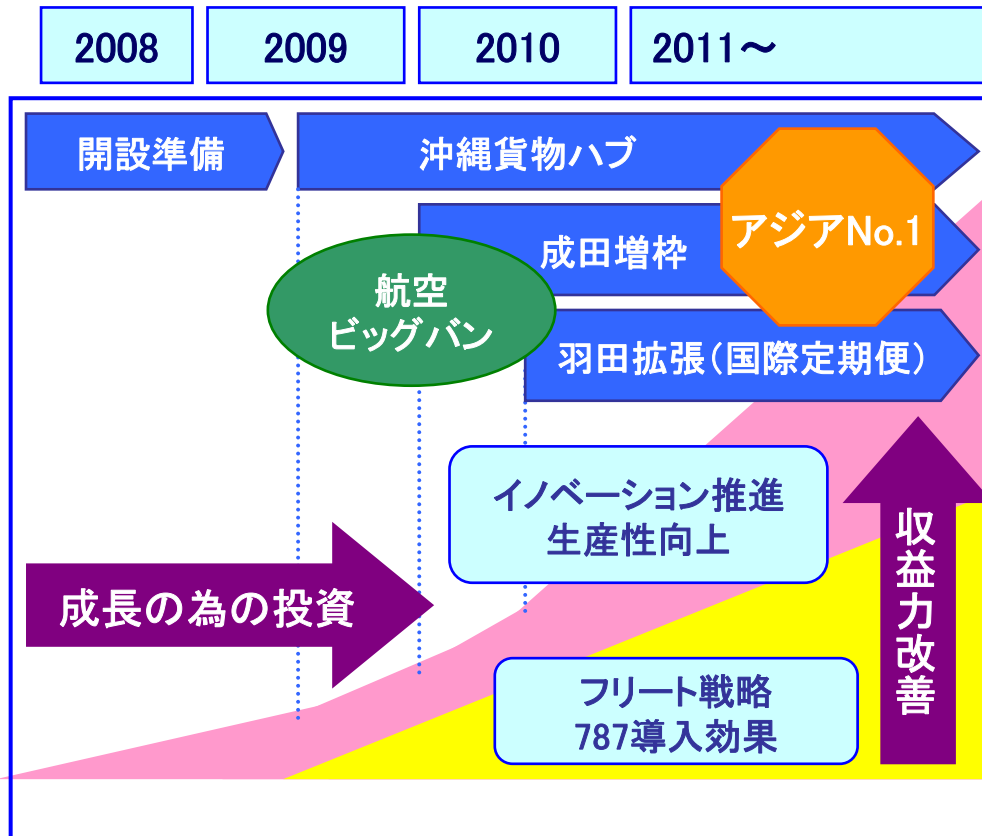
ANAグループ 新中期経営戦略

《変わらぬ戦略》

- 2010年の首都圏空港拡張と共に事業成長
- イノベーション推進による生産性向上を準備
- 成長に必要な設備投資を着実に実施

《策定のポイント》

- 事業環境の変動への対応
(需要動向、不安定な燃油市況、競合激化)
- 機材計画の最適化に向けた見直し
(B787導入遅延、長距離大型機の必要性検討)
- 生産資源の最適配置についての再検証
- 商品戦略、提携・ネットワーク戦略



ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.ana.co.jp>

[日本語] IR情報 → IR資料室



全日本空輸株式会社 IR推進室

電話番号: 03-6735-1030(代) FAX: 03-6735-1185 メールアドレス: ir@ana.co.jp

<ご自由にお使いください>

<ご自由にお使いください>